

# 漂著石神論計画

折口信夫

青空文庫



- 1 柳田先生の民俗学的研究上、一大体系をなす石信仰。今新な回顧の時に達した。
- 2 諸国海岸に、古代より神像石カムカタイシの存在した事実。
- 3 神像石の種類。
  - a 定期或は、臨時に出現するもの。  
「イ、海岸。
  - b 常在するものトロ、海岸から稍隔つた地。  
「ハ、海中の島又は、岩礁。
- 4 神像石の様態。
  - a 唯の石であるもの。

b 神の姿を、想見せしめる程度のもの。

5 この論は、此を出発点として、漂著<sup>ヨリ</sup>神信仰の中、石神の件を考へる。

6 3のイ・ロ・ハは、海岸に出現する形が、最、普通であり、正確なものである。此が、浜を遠ざかる程、村の生活が、山手に移つた事を示す。ロ・ハは、遥拝信仰発達の一過程であるが、其多くは、神幸の儀式を行ふ前の、足だまりとなる地点であつた。

7 「遥かの沖にも、石はあるもの。<sup>エビ古ゼ</sup>夷御前の腰掛け石」の唄。

8 腰掛け石と、影向石と。

9 五郎投げ石・力持ち石。

10 村岡五郎——相州の巨人伝説。

a 曾我。

b 鎌倉。

11 石つぶて。

12 おひし。

a 生石

b 大石

13 一夜、忽然出現。

14 石を以てする神出現の証——地藏。

15 石出現の夜の行事。

16 石と、成年戒と。

17 印地打ちと、成年戒と、石の洗礼と。

18 石の旅行性（自力ならぬ）・植物旅行性。

19 石の人による旅行。

20 石の分霊観。

21 人にとられると同時に、大きくなる。

育て主を待つ。之が極ると、急に大きくなる。

「翁

a 大きくなる者——育み人ト

「少女——後、夫婦

b 小さいまゝの者

22 育み人有勢な場合。

- a 少彦名——つき物
  - b 天日矛の石及び珠——夫婦
- 23 より石と、巫女と。
- 24 玉の歌。
- a 魂関係
  - b より来る玉
- 25 玉は石か、貝か。
- 26 装身具以外の玉。
- 27 玉がしはを、石とする説。  
玉を盃に入れること。
- 28 海祇の玉献上と、降服。

- 29 玉の大きくなる事。
- 30 世襲の玉と、その増殖した物を伝ふる家系。
- 31 玉を貰ふ事が、魂を貰ふことになる。——みたまのふゆ。
- a 定期 歳暮
- b 臨時 みたま賜ふ
- 32 玉その物から、魂を托する物。みまのからに變化。
- 33 玉よる磯。
- 34 やぼさのより処。
- 35 対馬正式。
- 36 壱岐のやぼさ。
- 37 やぼさから、鬼塚へ。

38 鬼塚と、より神と。

より神と称する物。

a 建て物——海

「イ、巫女の憑り神

b 民俗卜口、盲僧の役神

「ハ、陰陽師

39 神功皇后の石。子負の原の鎮懐石。

壱岐の鎮懐石（石を栓として置く）。

40 石数増殖。

41 石成長。

42 鎮懐石の意義と、成女戒と。

㊦ 鎮懷は、鎮魂の一方面であること。

㊧ 鎮懷石の他処より来る事。

㊨ 望夫石の問題。

㊩ 親友中山太郎さんの考証。

㊪ 人や動物の石になり、植物の石になること。

㊫ 三宝絵詞・今昔物語では、動物の過去生を説いて、経を聴く為の仮身だと説く。未来生を説くよりも、此時代の仏的色彩が出てゐる。

㊬ 此と共に、未来転生を説いて、神道（仏法一派として）に入る事を言うたに違ひない。

㊭ 犬は固有種の少数の外は、猫と同じく、外来のもので、猫

よりは遙かに、早かつたらしい。

51 異郷の叡智を受けた、敏感な生物。

52 人に犬姓を与へた、播磨風土記の例（告<sup>リ</sup>「つげだらう」首）  
53 常世長鳴鳥式の智慧。

54 沖繩の各由来記には、犬の神になつた話が多い。それは、  
石になつたことである。

55 いづれ、仮死の状態を考へるのだらう。

56 常世の所属たらしめる為の洗礼には、石の形を経過せしめ  
る。

57 大国主の赤猪石。

58 出雲の国造の、猪形の石につけて、菱根池に水葬せられた

こと。

59 岡となる。大丘——石。

60 蚕の化成した、日女道丘。  
ヒメヂラカ

石と山との関係。

61 猪の石。

62 犬その他のとてむ。

63 印南郡益氣里斗形山あつて、石橋がある。  
ヤケ

天との通路だ。天の八十人上下した。

此は、動物以外の第二義式化成。

64 よみの国へ行く巖窟。

65 彼岸国からの印象。

かし石の穴の雫の、柱石となつた事。



# 青空文庫情報

底本：「折口信夫全集 3」中央公論社

1995（平成7）年4月10日初版発行

底本の親本：『『古代研究』第一部 民俗学篇第二』大岡山書店

1930（昭和5）年6月20日

初出：「民俗学 第一巻第一号」

1929（昭和4）年7月

※底本の題名の下に書かれている「昭和四年七月「民俗学」第一巻第一号」はファイル末の「初出」欄に移しました。

※複数行にかかる中括弧には、けい線素片をあてました。

入力：門田裕志

校正：仙酔ゑびす

2007年4月8日作成

2007年6月3日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waazora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 漂著石神論計画

折口信夫

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>